

・・・本日の礼拝メッセージ・・・

《テーマ》 「ここに愛があります。」

・・・十字架の意味・・・



《みことば》 I ヨハネ4章7～11節

7 愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。

愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。

8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。

9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。
それによって神の愛が私たちに示されたのです。

10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

《本日のメッセージ》

1、「神は愛なり。」・「ここに愛があるのです。」

a、神様とはどういうお方なのでしょう？

b、永遠のベストセラー聖書は、神がいるとかいないとかではなく、聖書冒頭ではっきりとこう言います。

「はじめに神が天と地を創造された。」

創世記 1:1

①新島襄はこの言葉をアメリカで聞き、天地を作られた神を信じました。

②中世の多くの天文学者は、聖書を信じ・天地創造の神を信じていました。

☆コペルニクス・・・聖職者として「天動説」から「地動説」を唱える

☆ケプラー・・・「天文学者は自然の聖書をもとに、神に仕える牧師である」

☆アイザック・ニュートン・・・「聖書には、世の中のどのような歴史書よりもたしかな真理がある。」 ニュートン

☆ガリレオ・ガリレイ・・・「宇宙はもう一つの聖書」



c、聖書全巻のテーマは「神は愛だからです。」8節 「神は愛なり」【文語訳聖書】です。

「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしは

あなたに真実の愛を尽くし続けた。」

旧約聖書 エレミヤ書 31:3

2、神のひとり子イエス様が、私たちの罪を赦すために十字架で死んでくれました。

・・・「ここに愛があるのです。」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」 ヨハネ3:16

a、神の愛とはどのようなものなのでしょう？

アガペー【ギリシャ語】・・・「無条件の愛・惜しみなく与える愛・永遠の愛・完全に赦す愛」

☆神の愛・アガペーの愛の故に、神はそのひとり子イエス様をこの地に送られた。

b、神の愛の現れ、あなたのための十字架

①イエス様は人としてこの地上の生涯を歩みました。

☆イエス様は、貧しさ・無理解・裏切り・迫害・あざけり・ののしり・弟子の裏切りを体験しました。



②イエス様は当時の宗教指導者の妬みの中で…何一つ罪のないにもかかわらず・・

神への冒涇という罪状によって・・十字架にかけられた！

③それは、あなたの罪の罰を受けて、身代わりになって死んでくださったのです。

c、あなたが永遠の滅びの中に行くことの無いため・・主キリストの十字架・・ここに愛があるのです。

23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

ローマ 3: 23～24

「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」

6:23

3、「ここに愛があるのです。」から、私達は「互いに愛し合ひましょう。」

7,11 節

a、私達の人生において最も大切なこと・・「互いに愛し合うこと」です。

☆それを可能にするのが、神の愛を受けて・神の愛に生きる事なのです。

b、「互いに愛し合う」とは？



4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、

6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。

7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

I コリント 13:4～7

「愛するとは、人に完全を要求しないことである。愛はまた、欠点のある人たちを助けるように仕向ける。

愛はまた故意に人に害を与えない。愛の精神は不親切な言葉、中傷、強い批判を抑える。愛は容易に怒らない。他の人から受ける不当な取り扱い、不親切を見逃す。愛は不法をしない。愛は粗野な、または下品が表現をしない。・・愛は、受けるよりも与える事に關心を持つ。愛は他の人の最善を望み、悪を期待しない。」

火曜礼拝テキスト：「实际的クリスチャン生活」 第1課「互いに愛し合え」より

【クリスチャン作家三浦綾子さん（1922～1999）を救いに導いたクリスチャン医学生の前川正さん】

三浦綾子さんはかつて熱心な小学校の教師でした。終戦になり教師を辞め、非常に乱れた生活を送り、肺結核と脊椎カリエスという長期の病床生活に苦しみ、自殺未遂や虚無感の中にありました。

そんな中、幼なじみでクリスチャンであった前川正さん（2歳年上の北大医学生・肺結核で休学中）・・以下敬称略・・との再会が、彼女の人生を変えることになります。

彼は、毎日のように病室の綾子を見舞います。そして、虚無的な生き方をしていた綾子にイエス様の愛の福音を伝えるのですが、綾子は信じてくれませんでした。

深く嘆いた前川は、旭川市街を一望できる丘に綾子を誘い出します。懸命に神の愛を語り、彼女を諭す前川は綾子は皮肉な目で眺めながらたばこに火を付けます。前川は、傍にあった小石を拾い上げると、突然自分の足をゴツンゴツンと打ったのです。「私は一生懸命に綾子さんに神様の愛を語ってきたけれども、私は綾子さんをどうすることも出来ない、不甲斐ない自分を痛めているのです。」と言い、足を血だらけにして泣く前川の姿に打たれ、綾子は男女を越えた深い愛「ここにまことの愛がある」ことを知り、やがて、前川の信じているイエス様を信じるようになり1952年7月5日病床で洗礼を受けました。その後、前川正は1954年（昭和29年）に34歳の若さで主の元に召されました。

彼は、自身の葬儀で I ヨハネ 4: 7～21 を読んでもらうことを遺言として遺していました。

やがて三浦光世と結婚しクリスチャン作家となった綾子は、生涯で「塩狩峠」「道ありき」「光あるうちに」

「氷点」「泥流地帯」「細川ガラシャ夫人」「銃口」「愛の鬼才」など58作品を残しました。



伊藤師夫妻は、共に「[塩狩峠](#)」を通して、イエス様の救いに導かれました。